

## ひよこ保育園との課題懇談会報告書

- 1 開催日時：令和7年5月28日（水）午後1時30分から午後3時30分まで
- 2 開催場所：委員会室
- 3 出席者：＜ひよこ保育園＞  
園長ほか5人

＜文教民生常任委員会＞

浅田康子委員長、森脇久夫副委員長  
寺北建樹委員、坂部武美委員、高瀬 洋委員  
高瀬弘行委員、杉本佳隆委員、岸本年裕委員

- 4 テーマ：ひよこ保育園の設立とこれまでのあゆみと現状

- 5 ひよこ保育園紹介

設立：昭和44年、設立から56年になる。

理念：乳幼児期から集団の中で心身ともに豊かな子どもを育て、母親が安心して働ける保育園

- ・代表の家で2人の保育士と3人の赤ちゃんでスタートした。
- ・当時から乳児保育や長時間保育など子育ての保育ニーズに対応し、子どもたちは小さい時から、友達同士で関わりを深めながら成長し、お母さん方は子育てをしながらも仕事を持ち、社会に出て元気に頑張れることにつながったと思っている。
- ・それから7年後に、ニーズが増えたことで板波町に移転した。この建物は古いものだったが、広いので子どもたちが部屋の中でも遊ぶことができるいい園舎だった。
- ・それから特別保育として、学童保育、休日保育、一時預かり保育、障がい児保育などにも取り組んだ。今でこそ学童保育があるが、その当時は全然なく、重春小学校の校区だけになったが、重春小学校に行っていた子どもたちが歩いて保育園に帰ってきて、その後の保育をするという形で始めた。
- ・地域保育としては、遊ぼう会、子育て講座、子育て新聞、子育て相談などを行ってきた。その当時、みらいえのような気軽に親子で使える場所がなく、孤立する親子がいることに気づき、保育園に気軽に来て、園児と一緒に遊んだり、先生に子育てで悩んでいるお母さんの話を聞

くような取組を行ってきた。

- 板波町に移転してから、園舎の老朽化が進み、建設会社をされている保護者からの声で、建て替えを決心して今の園舎に至っている。
- その後、認可外保育施設指導監督基準を満たす旨の証明を県から取得している。2年に1回の監査もあり、認可外施設ではあるが、保育園としての基準を満たしている証明も毎年もらっている。
- NPO法人を取得している。
- 減りつつあった園児も、新園舎になって増えている。
- 建設資金は寄付金 1,800万円に加え、自己債権 1,800万円と銀行借入 2,700万円で、これらは10年で返済した。その間、先生の給料は据え置きとさせてもらった。
- 新園舎といっても完成して15年になり、最初の改修が床板張替えである。これは裸足保育による損傷への対応で、その他に、テラス前通路とブランコ下シート、トイレの壁紙で 450万円かかった。この費用は、50周年の寄付金と月々徴収している修繕費15年分、園の貯えで賄った。
- 次の年に園舎の屋根の瓦が落ち、修理することになった、床板修繕等でお金を使ってしまった後だったため、困って市に要望させていただいた経過がある。
- 父母の会からの修繕費や寄付金、園の負担金で屋根の改修をした。
- 今後は外壁、園周りの柵、厨房のコンロ・食洗器・冷蔵庫、各部屋のエアコンなどの改修や10年後、床の改修がある。園としてもその時のために計画的に考えていく。
- 要望活動については、西脇市に補助金を求める要望書を提出し、答えも貰っており、加東市にも補助金を申請し、補助していただいている。
- 認可を求める1万人の署名を平成10年に提出している。
- 資金活動では、廃品回収やバザーも実施している。
- 市からの補助金がなければ、現在の存続はなかったが、それでも人件費を切り詰めていかなければ運営できない状況にある。
- 56年続いた保育園の歴史を閉ざすことはしたくない。そのために自分たちでできることはやっていくが、運営補助金の増額をしていただけるように支援していただきたい。
- 新園舎建設時に法人格が必要となり、NPO法人を取得した。
- 約 2,600万円の貯えはあるが、少子化等により閉園ともなれば、建屋を解体して土地を板波町に返還しなければならない。その解体費も何千万円かは必要になり、債務を残しての解散はできないため、貯えておかなければならない。もしお金が残れば、それはお世話になった西脇市に寄付という

ことに定款を変えても良いと考えている。現状、どのような福祉施設でも補助金なしでの運営ができないのは明らかで、特別な優遇をお願いしているのではなく、最低限の運営のできる助成をお願いしたい。

- ・これから若い人に運営を引き継いでもらうことになっていくが、新しく入ってこられる職員の方には、普通の保育園と同じような待遇にできればと思っている。
- ・卒園者 昭和62年以降 522人（内西脇市 395人、加東市87人、多可町他40人）
- ・建屋 平成19年築、床改修 令和4年度、屋根改修 令和6年度
- ・今後の改修計画 外壁、調理室機材、エアコン、約10年後に床張替え
- ・職員：保育士8人（内2人非常勤）、栄養士2人 平均年齢 44.9才  
※今後10年で4人定年退職予定
- ・平成28年に借金返済が終わり、それまで凍結していた基本給を平成29年に引き上げ実施。令和元年10月から無償化が始まり、令和2年度に基本給引き上げ実施。その後も採用のため引き上げ実施
- ・補助を求める理由は、人件費の上昇と最低賃金の上昇があり、加えて社会保険料の上昇も見込まれるため。
- ・2022年から国が保育士確保のために処遇改善費を出しているが、無認可は該当になっていない。
- ・直近の改修予定は外壁で約 200万円を見込んでいるが、修繕費積立金は約 139万円となっている。

## 6 質疑

- ・市からの補助金 942万円は、運営に対するもので、施設改修は対象外との理解でいいか。  
⇒ 今の補助は人件費に充てている。コロナ禍の補助金はあったが、施設面に対する補助はない。
- ・補助要望は、毎年市に出しているのか。  
⇒ 毎年出し、返答ももらっているが、引き上げはない。942万円に上がった時も、市長はそれ以上無理やでという感じだった。施設改修も、内容によって少しは出るかもしれないとの話はあったが、床改修の相談した時には工事期日を先に決めていたので、そこまでの話ができなかった。保育士の処遇向上の補助も認可外は対象外になっている。
- ・市に対して具体的な改修等への補助という話をしている中で、市議会にはその応援をお願いしたいということであれば、話が分かりやすいが、具体的な内容がない中では、園の現状理解に留まる。その理解でいいのか。

⇒ そもそも認可保育園にしてほしいという要望は何年も前から市に出しているが、できない理由は、西脇市には待機児童がおらず、新たに保育園を増やすことはできないとのことだった。県に相談していた中で、こども園ができる際には認可保育園でなくても、こども園になれますよとの話があり、書類を揃えたが、その際、市の意見書が必要だとわかり、市にお願いしたが意見書は書けませんと断られた。市と保育園協会との関係もあったのではないかと思うが、断念した経緯がある。ひよこ保育園が西脇市にとって認可保育園に値しないようであればわかるが、保育士も情熱を持って頑張っているし設備もあるので、なぜ認可保育園でないからできませんとなるのかと思う。この根本的なことを議員の皆さんにはご理解いただき、側面的な援助をお願いしたい。

これまで屋根の修理などは止めていた。バランスシート上ではお金があるように見えても、固定資産の園舎は他に使えないので、余り甘く見ない方が良く思っている。先生方は、子どもたちのことを考えて必要最低限のところまで対応されている。それで、計画を立てて、あらかじめ市にも要望するようにしている。

- ・ 今後、施設改修も出てくる中で、毎回補助をお願いしますという形ではなく、人件費も上がる状況があるので、基本の補助を引き上げられたらと思うところはある。ひよこ保育園の存在は大切に、保護者世帯や子どもたちへの投資ということで議会としても考えていくことは必要だと思う。

⇒ 毎年、市の方に運営補助の増額を要望しているが、現状維持がやっとなりの答えをもらっている。しかし、認可園の場合、運営費に対して国1/2、県1/4、市1/4の補助があるが、無認可は国・県の分がない。60人定員の園運営費は年間6,000万円程度かかると聞いたことがあり、その時は3,000万円程度で運営していたので、ひよこ保育園の運営費は半分程度だと思った記憶がある。無償化や補助金も上がったことで潤ってきてはいるが、規模から補助全体を6,000万円としたとき市は1,500万円となり、今の942万円から1,500万円に上げてもらえれば運営が楽になると思っている。認可の願いは無理だと思っているので、毎年提出している補助金の増額はどうかと議会の方からも言っていただけではないかと思う。

- ・ 市の予算から見ると、認定こども園8園に対する補助は1億800万円、1園平均1,300万円となり、人数規模も加味すると、市が大きな差をつけていることはないように思う。ただ国・県がない分、ひよこ保育園にとっては厳しいということではないか。

⇒ 国・県の分は認可が取れないと出ない。それからNPO法人を取得しました。

- ・補助金 942万円の積算根拠を確認すべき。その内訳が分からないなら、うちではこのような事業をやっていますなど増やすための根拠を示す必要があると思う。補助が少ない根拠が分かると、議会としても言うことができる。
- ・認可の問題が出た時に、認可園や区長会などから議員に認めるなどの圧力がかかるのではないか。その時16人の議員のうち認めろと言える議員が何人いるか、半分いないのではないか、それが現状だろう。

また、認定こども園に出している補助から保育料を引くと、実質、市が出している補助金は変わらないとなる。そういったことから、942万円をどうやって増やすかの理屈付けしなければならない。認可ができないのであれば、補助金だけでも増やすことを皆さんが議会と一緒に考えて考えなければならない。

少子化が進んでいる中においては、認可が更に難しくなっているので、なおのこと、補助金を増やすための知恵を絞らなければならないし、その方が議会としての態度も示しやすいと思う。

⇒ 加東市長に補助金のお願いに行ったとき、加東市から何人お世話になっているかの確認を受けた。それを基に、担当部長に検討する指示が出されて、補助が出るようになった。それを見ていて、認定園と両方分かった人でないとできないことだと感じた。

保育料として月約 200万円が現金として入っている。運営費として約 300万円が残っている。人件費の積立資産として約 450万円がある。今後の人件費の高騰や社会保険料の上昇が念頭にある。保育施設・設備費としては昨年度から 1,000円上げてもらったのと合わせて約 130万円ある。解体費とその時の人件費として約 1,000万円としている。退職金として約 450万円を積み立てている。

- ・今日の話は、現状を見て認可は難しい、補助金をいかにして上げるかということと思っている。そういったことでは、坂部委員の指摘にあったように、例えば光熱費でいくら上がっているなど、具体的な内容でやっていくことが分かりやすい。

給料17万円とのことだが、年収はどうなっているか。

⇒ 5年以下の者は約 280万円、あとは30年以上の者になり約 320万円である。ボーナスは2か月を年2回出すようにしている。

- ・資産は徐々に増えてきているが、解体時に必要な分、退職金として必要な分は明確に示すことが必要で、分かりやすくなると思う。

⇒ どこかの認定こども園の決算書を見せてもらえれば比較もできると思う。

※各園のホームページに出ている。

- ・加東市からの補助金が令和2年度2倍に増えているが、その理由は何か。  
⇒ 加東市の全体が見直されて上がったと認識している。
- ・保育料の表において、どの層が多いのか。  
⇒ 0歳児では56,500円が多い。
- ・市には、何月頃に要望を出しているのか。  
⇒ 9月頃に出すようにしている。
- ・要望の内容は、金額を示しているのか。  
⇒ 理由も示しながら上げてくださいたいとの内容で、具体的な金額は示していない。
- ・昨年話をした時に、予算をどのように立てられているかをお聞きした。そこがきちりできていれば、例えば人件費が上昇したら、どれだけ必要になり、自前での対応とどれだけ補助してほしいかが分かりやすくなると思う。そうすれば議員にも内容が伝わり、議会としてどうすればいいかにもつながってくるので、きちりと見えるようにしていただきたい。  
⇒ 必要な資料は準備していきたい。
- ・保育士の処遇改善において、市単独のお金で認可には1人6,000円、パートには4,000円が出ていたと思う。それがひよこには入っていないのではないか。それは要求の根拠にできるのではないか。  
⇒ それを担当課に聞いたが、その際は国の補助事業なので出ないとの回答だった。
- ・認可が取れると、今のひよこ保育園と変わるのか。  
⇒ 保育内容は変わらないが、入園が市を通じてになるので、希望していても入れないという状況が出てくるかもしれない。保育料を見てもらうとわかるが、低所得の方の保育料が、認定こども園より高いと思う。それでも選んでくださる方がある。3歳になれば、無償化になるので、それまではパートをしてでもという声も聴いている。

## 7 保護者意見

- ・ 昨年陳情を出させてもらったが、不備な陳情になってしまい、大変申し訳なかったと思っている。その際、課題懇談会というものがあつた、そこで話をしてみたらどうかとの話をいただいた。昨年度の会長がひよこ保育園に対して本当に頑張ってくださいだったので、年度末になつて、そのことをどうするか、自分が会長職を引き継ぎ、先生方はちゅうちょもされたが、こ

の場になっている。素人なのでここに来てみないとわからないことばかりだった。

自分がひよこ保育園と関わるようになったのは、年子の子どもを抱えて、産後鬱で独りぼっちだった時に、友人から「ひよこ保育園に行ったらどう」と言ってもらったのがきっかけである。あそこの園はあなたを助けてくれると思うとのことだった。0～1歳クラスに入らせてもらったが、0～1歳児が座って、先生の方を見ているという様子を初めて見た。0～1歳の子どもがニコニコと人の話を聞ける教育をされている園である。それから7年、次男がお世話になり、末の長女が年長で通っている。

自分は、今小学校で算数や国語を教えている立場にあるので、学校の少子高齢化や先生の数の足りなさ、どれくらいひっ迫しているかは身をもってわかっているつもりである。現場に入っているので、どうしようもないということも百も承知である。園に通っていて、先生方の一番すごいなと思うのは、親を叱ってもらえるというところである。「お母さんが忙しいのもわかるけど、子どものことをもうちょっと考えられるか、仕事を辞めろと言っているのではないからね」と言ってもらえる。親のサポートが一番大きかったなと思っている。子どもはのびのび、ひよこに行ったおかげで子どもの性格ができたと感謝している。親育て、子育てを教えていただいた園であり、今の世の中に必要なことを全て備えている園である。言葉、数字、認可にしてほしい園です。一度園の運動会、卒園式などに足を運んでいただきたい。先生方がどういう教育をなさっているかを一度見ていただければと思う。困っている、悩んでいる、助けてほしいと思っている人に対して、市政に関わる方がこうしたらどうかと声をかけていただければ、神にも上がる思いです。今後一緒に考えていただければと思います。

- 主人はひよこ出身ですが、通っていた頃の先生が半分いらっしゃるということに驚いた。ロコミなどで先生がすごく良いとを聞くのは、先生が残っているからだと思う。直近の話では、フェンス改修で、父が相談に乗ったのですが、先生の要望は、一番安いものにしてくださいであった。私は、安全なものでしてくださいという先生の声が欲しいのが本心である。園の大変な状況をお話いただいたが、子どもが安全に暮らせる施設、場所を継続していくために皆さんにお力添えいただけたらと思っている。よろしく願いいたします。

以上